

令和2年度 学校評価計画表

奈良県立畝傍高等学校 (全日制)

教育目標	日本国憲法・教育基本法及び学校教育法に定められた教育の根本精神に基づき、人権の尊重を基底とした民主的な社会の形成者として必要な資質を養い、豊かな文化の創造に寄与する心身ともにたくましい生徒の育成を目指す。	
運営方針	「地域との協働による高等学校教育改革推進事業(グローバル型)」の目的を踏まえ、課題研究や各教科、体験的な学習を有機的に関連させることにより、知・徳・体の調和のとれた、自主的・創造的でグローバルな視野をもった次代のリーダーの育成を目指す。	
平成31年・令和元年度の成果と課題	本年度重点目標	具体的目標
○「地域との協働による高等学校教育改革推進事業(グローバル型)」に関連した課題研究の取組によって、生徒の課題発見、設定に関わる力、表現する力に向上が見られた。また、「未来創造会議」等における生徒の発表内容も充実したものとなった。	(Communicate) 自己理解や他者との関わりをとおして、コミュニケーション力の向上を図る。	・自己についての省察や他者を思う心を養い、自分の考えを正確に伝える力を育成する。 ・学校行事などの諸活動をとおして、様々な意見や考え方に触れ、合意形成を図ったり意志決定したりする能力を高める。
○第2学年生徒が海外研修を体験することで、海外に目を向けるとともに様々な社会問題に課題認識をもつなど、生徒の意識変化が認められた。	(Collaborate) 社会の一員としての自覚を促し、他者と協働する能力を養う。	・社会のルールやマナーを身に付けた生徒を育成する。 ・様々な教育活動をとおして、自他の個性を理解して尊重し、信頼し合える人間関係が構築できるよう支援する。 ・地域や他の教育機関等との連携を推進する。
○「地域との協働による高等学校教育改革推進事業(グローバル型)」校としてカリキュラム研究を進め、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善を図るカリキュラムを開発することができた。	(Consider) 探究的な学びをとおして、主体的に物事を考える習慣や論理的な思考力を養う。	・授業公開や研修会などを積極的に行い、アクティブラーニング(主体的・対話的で深い学び)が各教科で実践されるように指導方法の工夫改善に取り組む。 ・課題研究等をとおして、知識・技能の定着や学習意欲の向上を図るとともに、思考力、判断力、表現力を育成する指導を実践する。
○生徒が主体性をもち探究的な学びをより進めていけるように、学習到達度を示した課題研究のルーブリックを作成した。今後はそのルーブリックを踏まえた実践的な活用の研究を行うとともに、授業等への導入を図る。	(Challenge) 自分の夢や将来を見据えた進路を設計する力を養い、その実現に向けて弛まず挑戦する強い意志を育てる。	・自らの在り方や生き方を深く考えさせ、将来を見据えた進路選択が出来るよう、各教科・科目等の特質に応じて、キャリア教育の充実を図る。 ・自己実現に向けて自ら必要な情報を収集する力を養い、様々な角度から適切な指導が行える体制づくりを図る。
評価項目	具体的目標 (評価小項目)	具体的方策・評価指標
総務企画	教育体制の整備と教職員の指導力向上に取り組む。	新規グローバル事業の取組や各種模試・調査等の分析を各分掌や各教科で定期的に行い、充実した教育体制を構築すると共に進学指導やキャリア教育のより効果的な改善に資するための提案に努める。
	畝傍高校の特徴を周知するために広報活動と募集活動を推進する。	学校評価、生徒による授業評価、保護者アンケートを実施することによって、生徒の実態や保護者の意識を把握するとともに、教育活動を点検し教職員の指導力向上を目指す。
教育企画	課題研究に関わる研究開発	全職員が共通認識をもって、課題研究の指導に取り組むことができるよう、授業担当者会議や研修等を定期的実施する。
	幅広い視野をもち、社会の動きに対応できる生徒の育成	教科・科目での指導をはじめ、未来創造会議や課題研究発表会、各種交流事業の意義を確認し、それぞれが有機的なつながりをもって、生徒のキャリア形成に役立てることができるよう、計画と調整をする。
教務	学校の教育活動が円滑に運営されるよう、調整を行う。	時間割編成、考査と成績処理、類型科目選択、講座編成、入試等、通常の業務を徹底するとともに、環境の変化や生徒の多様化に対応できるように、校内規程の点検を継続的に行い、改善していく。
		新型コロナウイルスによる休業や在宅教育と、授業時間確保及び学校行事実施との、可能な限りの両立を目指し、その方法の模索や調整、特別時間割等の編成を行う。
	特色ある学校づくりをめざし、教育活動の工夫改善を行う。	現行の教育課程の問題点等を検討・整理し、生徒の実態や進路希望等に対応する教育課程の編成に努める。また、今後の教育課程について次期学習指導要領に基づいて作成する。 各学年における特色ある取組(特に、修学旅行や進路に関わる行事)について、より効果的に実施できるよう、当該学年との連携を図る。 課題研究に係るカリキュラム研究を継続的に進めるとともに、主体的な学びを推進するための研修等の充実を図る。

評価項目	具体的目標 (評価小項目)	具体的方策・評価指標	
生徒指導	基本的生活習慣の確立	遅刻カードを活用し不注意による遅刻を防ぐ。 継続的な服装・頭髪・遅刻指導等を通じて、規範意識を高めさせる。	
	生徒の「心の健康」の増進を図る。	電子掲示板を活用し、「心の健康」に関する情報を発信する。スクールカウンセラーとの連絡・情報交換を適切に遂行し、相談活動を円滑に行う。新型コロナウイルスの影響による生徒の心のケアについては、いつも以上に配慮する必要がある。	
	教職員向けに、教育相談に関する情報・研修の機会を提供する。	年3回の職員研修を企画し、生徒理解を深める一助とする。 外部の相談機関との迅速な連携に努めるとともに、研修事業の情報を遅滞なく伝達する。	
	貴重品の管理	教室・部室・個人ロッカーなどの施錠を徹底させる。 個人ロッカー周辺の放置私物の指導を徹底し、自己管理意識を高めさせる。	
	通学マナーの向上	自転車通学生に雨合羽着用など事故防止対策を推進する。 登下校指導を通じて交通法規及びマナーを遵守させ、安全意識を高めさせる。	
	活気ある学校づくり	生活委員による挨拶運動を広げ、教員による登下校指導とも融合させ、活気ある学校づくりを目指す。	
特別活動指導	生徒による自主的・創造的な生徒会活動を推進する。	生徒総会や様々な生徒会行事について、自治の精神に基づき、役員が中心となり、生徒主体の活動となるように指導する。 通学路清掃や募金活動に多くの生徒が参加するよう指導し、生徒が社会参加について自ら考え、行動する資質を養い、社会性や責任感、ボランティア精神を育むように指導する。	
	生徒の意識を高める中で、互いに信頼しあえる学校づくり、さらなる学校の活性化を推進する。	畷高祭の企画を進化発展させると同時に、生徒全員が協力して魅力的な文化祭を成功・完成できるように指導する。	
	読書活動を推進する。	文化図書委員の活動を中心として、生徒が読書に親しむ機会を設定する。具体的には、「ライブラリーニュース」の充実、本の展示広報の工夫を行う。 図書館が生徒にとって身近なものになるように、「金魚鉢通信」や掲示板の活用などの広報活動の工夫、参加しやすい読書会の企画開催、授業での利用の推進、文化部との連携を行う。	
	文化行事を企画運営する。	生徒が主体的に行動できる文化行事を企画運営する。読書オリエンテーション、芸術鑑賞会、新春小倉百人一首かるた大会、ビブリオバトル等の文化講座を生徒が運営し、参加できるように実施する。	
	進路指導	「先輩の話を聞く会」や進路講演会、大学の学びについての情報提供、職場体験事業等の紹介などとおして、生徒の進路選択の意識向上やキャリア意識の醸成を図る。 各学年と連携し、進路ホームルームや総合的な学習の時間の充実に努め、生徒の進路実現に役立てる。 生徒の進路目標実現のため、生徒及び保護者へのさまざまな情報の発信に努める。 進路目標達成に向けた学力を確立するため、校外模試への取り組みや各期講習・土曜講座等の充実を図る。	
人権教育	生徒の人権意識をより確かなものとするとともに、主体的に取り組む姿勢や実践力を身に付けさせる。	毎月の「人権を確かめあう日」の取組を確実に実施し、生徒が社会や日常生活における人権問題に関心をもち主体的に取り組めるよう、内容の充実を図る。 人権教育HRでは、生徒が主体的に取り組むことができるような内容及び展開方法を考え工夫する。	
	人権教育行事に取り組むとともに、解放研活動の再建を図る。	人権講演会及び人権芸術鑑賞会の内容を充実させ、事前事後指導の手立てを設けることで、得られたものを確実なものとする。 生徒が互いに支え合い、信頼し合える人間関係の構築に努めるとともに、解放研活動の充実を図る。	
	教職員自らの人権意識を高め、保護者との連携を深める。	生徒の課題の把握と理解に即した研修を計画し、全体研修を年2回以上実施する。 保護者向け「熱れ」を年4回発行し、生徒の状況を知らせるとともに保護者への啓発紙とする。	
保健体育	健康の実態把握及び保持増進のための啓発に努める。	健康診断を円滑に実施し、すみやかな医療勧告を実施する。 保健室利用者について保健室利用カード等を活用し、担任等と連絡を密にする。 掲示物等を活用し健康の保持増進のための啓発活動を実施する。	
	体育関連行事への意欲的な参加と安全に配慮した運営をする。	保健体育の授業時の指導を通じて、記録等に関する生徒の意欲や向上心を高揚させる。 職員会議、体育委員会を通じて、職員および生徒に申し合わせ事項を徹底させる。 体育委員および各運動部員も運営に参加させながら、安全に配慮した計画のもと、充実した活動を目指す。	
	環境整備	校舎内外の整理整頓・点検整備を進める。	安全点検を年2回実施して集約を提示し、教職員の共通理解に努める。 循環型の社会を目指し、リサイクル分別回収の活性化を図るとともにゴミの減量をめざす。 校内美化に関する情報を定期的に発信する。整備委員会を中心としてロッカー周辺の清掃・整備を行う。 体育大会、文化祭などの学校行事において、ゴミの減量やリサイクル、清掃の徹底を図る。
		自主的な清掃・美化活動を推進する。	日常の清掃にきめ細やかに取り組む。特にトイレ清掃の徹底を図る。 整備委員会を中心に校庭の落ち葉掃きを定期的実施する。除草作業を適宜実施する。 年2回の床面塗油を計画的に実施し、歴史のある校舎を大切にすることを育む。

評価項目	具体的目標 (評価小項目)	具体的方策・評価指標
渉外	育友会活動を充実・発展させる。	育友会関係の行事を精選し、本部役員を中心として育友会活動が円滑に運営できるようにする。 育友会活動についての情報発信に努めながら、学校と家庭の連携を密にする。
	同窓会との連絡・調整を円滑に進める。	一昨年度と同窓会総会において基本計画案が承認され、昨年度、会長・副会長・常任理事および学年理事の改選が順次行われ事務局が立ち上がった。新たに設置された事務局を中心に、新体制での同窓会活動が円滑に進むよう、協力していく。
事務	学校生活における安全の確保及び環境整備に努める。	定期的な巡視を行い、不良個所などを早期に発見するとともに、早急な修繕・補修などに努め、大震災を見据えた生徒の安全対策が図れるように努める。
	光熱水費等学校管理経費の更なる節減に努める。	厳しい県財政の状況下において、一般管理経費などの節減は所属としての目標設定が不可欠である。令和2年度は、光熱水費を含めた管理経費の執行額を前年度以下にするように努める。
第1学年	自ら考え、行動できる生徒の育成	学習活動の様々な場面で「自分はなぜそうするのか、何をすべきなのか」を考えさせることで、自ら考え主体的に行動する習慣を身に付けさせる。
	規範意識の向上	全職員の共通理解のもと、服装指導や遅刻指導を行い、集団生活における規範の重要性を理解させる。 学習活動のあらゆる機会を通して、社会におけるルールやマナー、特に情報モラルを身に付けさせる。
	豊かな心の育成	ホームルーム活動や授業、学年集会などを通して、他人の立場で物事を考えることができる人材を育成する。 学校生活において、職員からも積極的に挨拶を仕掛けて挨拶の励行を推進し、活気のある学校生活が送れるようにする。
	基礎・基本の定着と進路目標の設定	基礎・基本の重要性や有用性を授業で説明し、自主的な家庭学習を習慣化させ、学力の向上を図る。 進路ホームルームを通して自らの進路目標を設定させ、大学見学会などへの参加を促し、進路選択への関心を高めさせる。
	グローバルな視点をもって地域で活躍する人材としての基礎力の育成	学校設定科目を含めた日々の授業における探究活動を通して、基礎的かつ専門的な知識および研究技能を培い、課題研究を行う上で必要な基礎力を高めさせる。 課題を発見し、その課題を掘り下げさせることで、グローバルな視点と主体的に思考し行動する力を養う。
	自ら考え、行動できる生徒の育成	学習活動の様々な場面で「今、何をすべきなのか。何からするべきなのか。自分は、なぜそうするのか。」を常に考えさせることで、自ら考え主体的に行動できる生徒を育てる。
第2学年	規律ある生活習慣の育成	自己管理意識を高めさせ、遅刻が続く生徒には登校スタイルの改善を促す。頭髮・服装等の生活指導に関しては、学年全体で継続的に行い、生徒たちの規範意識の向上を図る。
	豊かな心の育成	ホームルーム活動や学年集会等を通して、自らの意識と向き合うような活動をより多く取り入れることで、人権意識を常に確認させながら人権尊重の精神を深めさせ、他人を思いやる豊かな心を育成する。 学校行事等を通して、集団生活における個人の役割を認識させ、自ら考え、適切に判断し、共に行動できる力の育成に努める。 進路指導部と連携して生徒に適切な情報を提供し、基礎学力の向上とキャリア教育を推進し、自らが進路を切り開く意欲を持たせる。
	グローバルな視点をもった地域リーダーの育成	日々の授業における探究活動を通して、基礎的かつ専門的な知識および研究技能を培うとともに、答えのない問いと向き合う姿勢を育む。 他者と協働しながら自らの課題を掘り下げさせることで、多様な視点と論理的・批判的な思考力を身につけさせるとともに、俯瞰的な視点を育てる。
第3学年	自ら考え、行動できる生徒の育成	学校教育活動の様々な場面で、生徒自身が、常に「なぜ、そうするのか」「今、何をすべきなのか」「いつまでにすべきなのか」を考え、またその過程で、「このままでよいのか」「他により良い方法はないのか」を考えさせることで、自ら考え主体的に行動できる生徒を育てる。
	自律的な生活態度の育成	生徒の自己管理意識を高め、校則を遵守させるとともに、社会のルールやマナーを身に付けさせる。 各教科の授業の中やホームルーム等を通して、人権尊重の精神を深め、他人を思いやる豊かな心を育成する。 すべての学校行事を通して、集団生活における個人の役割を認識させ、主体性と責任感をもって適切に行動できる生徒を育てる。
	進路実現に向けての学力の向上	各類型ごとでそれぞれの生徒の実態に合ったより良い授業を工夫することで、自らの進路実現に資する学力の伸長を図る。 生徒のキャリア意識を高めることで、主体的で、継続的な学習態度を育成する。 生徒ひとりひとりにきめ細かな進路相談を実施することで、生徒個々に応じた自己実現と第一志望の目標達成を目指す。
	グローバルな視点をもった地域リーダーの育成	生徒自身が未来創造会議の企画・運営を行うことで、企画力、実行力、調整力やコミュニケーション力を養い、自分の役割に対する責任感をもたせることでグローバル・リーダーに必要な使命感を培う。 3年間を通して研究してきた課題を整理し、自らの進路実現につながるよう研究成果をまとめる。

評価項目	具体的目標 (評価小項目)	具体的方策・評価指標
国語	国語文化を広く深く理解し、社会生活を営む上で必要な国語力を養成する。	予習・復習の習慣化を図り、生徒の自主的な学習態度を養うとともに、語彙・文法等の基本的な知識を確実に習得させる。
		辞書・参考書・問題集を活用しながら、指導法に創意工夫を凝らし、生徒の論理的な思考力、読解力、表現力の伸長を図る。
		自分と異なる立場にある相手に自らの意見を発信したり、コミュニケーションを取ったりして、幅広い視野に立って協力しながら課題を追究し問題解決に導いていく力を身に付けさせる。
		「学びのナビゲーター」を活用し、教材に応じた学習のポイントや、手段、目標を明確にするため、担当者間の打ち合わせを密に行う。
地歴	日本史、世界史、地理への認識と理解を深め、主体的に生きる自覚と資質を養う。	歴史や地理に関心をもたせ、幅広い知識を身に付けさせる。自分たちの暮らしや考え方を客観的に分析し、それらがなぜそうなったのかを問う姿勢を養い、研究することの楽しさや意義を身に付けさせる。
		史料や図表、地図、統計を有効に活用し、歴史事項や地理的事象の理解を深める。
		各科目の授業内容を充実したものにするために、教員間の連携を密にし、科目をこえて研修を行う。
公民	現代社会の特質や課題を把握させ、民主社会の一員としての自己を探索させる。	グローバルとローカルという2つの視点から、現代社会が抱える諸課題や、政治、経済、社会について学習する。また、自ら主体的に課題を設定し、その解決に取り組み、探究的な活動や発表を行うことで問題解決能力を養う。3年次に学ぶ政治・経済に対する学習意欲を高め、より発展的な学習につなげる。
		日本や世界の哲学・宗教を学ぶことにより、主体的な自己の在り方、生き方という倫理的課題を探究させる。
		日本や世界の政治・経済を学ぶことにより、社会の構造を理解させ、時事問題にも関心をもたせる。
		各科目の授業内容を充実したものにするために、教員間の連携を密にし、科目をこえて研修を行う。
数学	数学における基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り、様々な事象を数学的に考察し処理する能力を養う。	教員間で互いに授業を公開することにより、アクティブラーニングなど効果的な指導方法についての研修を計画的に実施する。
		大学入学共通テストでは、主体的な思考力が問われるため、より柔軟な思考力や考察力が身に付くような授業展開・考査問題を検討し、生徒の意欲を向上させる教材を作成する。
		科目担当者間で授業内容などの打ち合わせを定期的に行い、観点別評価を意識した授業計画、考査作成を推進する。
理科	自然への関心・意欲を高め、基礎的・基本的な内容の定着を図るとともに、思考力・判断力を身に付けさせる。	教材・指導方法の工夫を図り、学力向上・進路実現へとつなげていく。
		問題集・参考書等の副教材を活用し、主体的な学習習慣・思考力を身に付けさせる。
		観察・実験等を通して自然の諸法則を理解させ、科学的に考察する能力を育成する。
		授業で学習した内容を日常生活と結びつけ、自分事として捉える力を引き出す。
保健体育	運動技能の向上と生涯を通じて継続的に運動ができる資質や能力を育成する。	個の能力に応じて運動技能を高めるとともに、自発的、自主的かつ安全に運動を行い、公正、協力、責任、参画等の態度を育成する。
		心と体を一体とし、健康の保持増進のための実践力を身に付けさせる。
芸術	生涯を通じて自らの健康を適切に管理する資質や能力を育成する。	自らの健康を保持増進できる能力と自他の安全に配慮できる能力を育成するとともに、家庭及び社会生活での健康、安全の確保について理解させる。
		芸術の幅広い活動を通して、生涯にわたり芸術を愛好する心情を育て、感性を高め、豊かな情操を養う。
		芸術作品の鑑賞を通して、その特徴や作者等について理解を深め創作活動に生かす。
英語	学習の内容が生徒に定着するように、基礎・基本の徹底を図り、学んだことを用いて表現する力を育む。	授業公開や教科の研究会への参加を積極的に行い、指導力の向上を図り、授業の質を高める。
		五感を鍛え、様々な用具・楽器の特性・技法を自主的に学ぶことにより、豊かな表現力の向上を図る。
		観点別評価の研究を深め、授業や評価において実践する。
		各学年の目標や指導内容、指導方法、使用教材を吟味・精選し、目的をもった指導を行う。
家庭	家庭生活に関する基礎的・基本的な知識と技術を習得させ、生活の向上に主体的に取り組む能力と態度を育てる。	生徒に家庭学習の方法について具体的方法を指導する。また生徒の個々の実態に応じて、補充指導等を行う。
		各教員が授業力の向上を目指し、互いの授業を公開し合い研鑽をつむ。
		学校設定科目「グローバル英語」において発信活動における基礎を固め、生徒たちの言語活動が2、3年次においてより充実したものになるよう、指導の工夫をする。
情報	情報の特徴と、情報化が社会に及ぼす影響を理解する。自主的にコミュニケーションを行う能力を養い、情報社会に積極的に参画する態度を育てる。	実習を効果的に取り入れる工夫をし、家庭生活に必要な知識・技術を具体的に理解させる。
		ホームプロジェクト・学校家庭クラブ活動により、家庭や学校、地域社会の生活の充実向上を図る能力と実践的態度を育てる。
		教科の研究会や研修会に積極的に参加し、指導力の向上を図る。
情報	情報の特徴と、情報化が社会に及ぼす影響を理解する。自主的にコミュニケーションを行う能力を養い、情報社会に積極的に参画する態度を育てる。	情報の収集・処理・発信などの情報活用能力や、プレゼンテーション能力を身に付けさせる。
		情報モラルとセキュリティに関する指導を徹底し、様々な場面で適切に対応できる態度を身に付けさせる。
		情報と情報社会に関心を持ち、社会の情報化の進展に主体的に関わる態度を身に付けさせる。